

令和2年2月16日

一般社団法人
尼崎市開業獣医師会代表理事
大松 健

尼崎市内飼育猫および犬における重症熱性血小板減少症候群発生の 緊急周知報告および注意喚起

2020年1月23日、尼崎市内会員動物病院に受診した一般飼育猫において、重症熱性血小板減少症候群(以下 SFTS)を疑う猫の発症報告を受けました。また同月26日には同会員動物病院に受診した一般飼育犬における同様の報告を受けました。

両症例とも外部検査機関にて検査を実施しSFTSウイルス陽性との検査結果であったため、臨床症状と併せてSFTSウイルス感染を強く示唆するところとなりました。

猫自身はすでに死亡しており犬については現在治療中ですが、診療関係者および飼育者への感染は今のところ確定されておりません。

しかしながら、尼崎市内で飼育されていた飼育猫および飼育犬からSFTSウイルスが検出されたという事実を踏まえれば、SFTSウイルスを保有するマダニが市内に生息する可能性を否定することができないことから、人への感染を含め、慎重に対処すべきと考えます。

具体的には、ノラ猫等の野外にいる動物にむやみに触らない、草むらに入るときにはマダニに噛まれないように長袖、長ズボンを着用するなどの注意が必要です。

また飼育犬および飼育猫においては、徹底したマダニ予防が必要です。発熱、食欲低下、元気消失などの症状が認められた際は、動物病院への早めの受診をお願いいたします。